



Nippon Carbide
Industries (USA), Inc.



第125期 中間期 株主通信

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

 日本カーバイド工業株式会社
NIPPON CARBIDE INDUSTRIES CO.,INC.

私たちのミッション

技術力で価値を創造し、
より豊かな社会の発展に貢献する。

私たちは、お客様からのニーズを原点に、培ってきた技術を究め、融合させることで、価値ある製品を広く提供し、持続可能な社会の実現に貢献し続けていきます。

私たちのビジョン

キラリと光る、価値ある企業グループ

社員一人ひとりが自分の仕事に自信と誇りを持ち、成長を実感しながら、関わる全ての人の満足度を追求することで、社会においてキラリと存在感が光る、価値ある企業を目指します。

私たちが大切にしている価値観

誠実であること
Sincerity

奉仕すること
Service

協力すること
One-NCI

創造すること
Innovation



代表取締役社長
杉山 孝久

「キラリと光る、価値ある企業グループ」を目指して

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社グループ第125期第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の事業概況につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、利上げによるインフレ抑制策の継続や、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、原燃料価格の高止まり、中国経済における回復ペースの鈍化等、引き続き先行きの不透明な状況にあります。

当社グループの事業では、電子・機能製品は、昨年度後半からのエレクトロニクス市況低迷により、半導体及び電子部品向け製品の出荷が減少しました。フィルム・シート製品は、米国でのグラフィック向け製品の流通在庫消化が遅れ出荷が減少も、欧米や中国での自動車販売台数の回復により、ナンバープレート向け製品の出荷が増加しました。建材関連は、原材料価格の変動に応じた価格改定と固定費抑制により、収支が改善しました。エンジニアリングは、グループ会社を含めた工事案件の受注が減少しました。

このような状況のもと、全体として原燃料価格の高止まりの影響もあり、当社グループの当第2四半期連結累計期間

の経営成績は、売上高は前年同期比1,979百万円（8.5%）減の21,333百万円、営業利益は前年同期比588百万円（55.0%）減の480百万円、経常利益は前年同期比712百万円（41.0%）減の1,027百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比580百万円（42.4%）減の787百万円となりました。

当中間期の配当につきましては、2023年11月8日開催の取締役会において、1株当たり30円と決議いたしました。

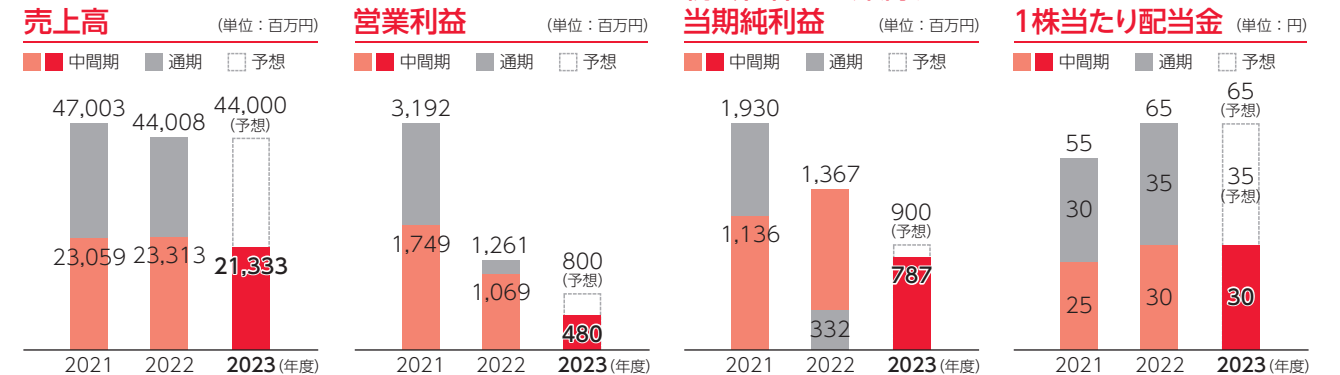
当社グループの今後の見通しにつきましては、半導体市況及びエレクトロニクス市況回復の遅れにより、電子・機能製品の出荷が減少することなどが見込まれます。

このような状況を踏まえ、通期の連結業績予想につきましては、売上高44,000百万円、営業利益800百万円、経常利益1,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益900百万円に修正いたします。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

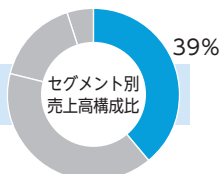
2023年12月

業績ハイライト

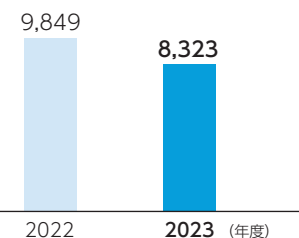


セグメント情報

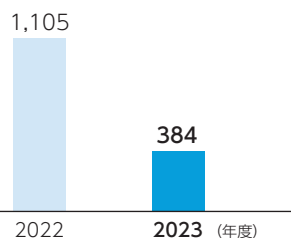
電子・機能製品



売上高 (中間期)
83億23百万円



営業利益 (中間期)
3億84百万円



主な取扱製品
機能化学品／機能樹脂／電子素材



機能化学品

当該事業の主な取扱製品は、ファインケミカル製品や医薬品原薬、医薬品中間体などの機能化学品、粘・接着剤などの機能樹脂、半導体用金型クリーニング材やセラミック基板などの電子素材であります。

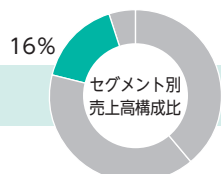
機能化学品は、異常気象をもたらす多雨の影響により発生する病害から、農作物を守る農薬向け原料の出荷が増加したものの、昨年度後半からのエレクトロニクス市況低迷により、半導体及び電子部品向け製品の出荷が減少し、前年同期比減収減益となりました。

機能樹脂は、液晶パネル関連市況の回復力は弱いものの流通在庫の消化が進み、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が増加したほか、高付加価値品の出荷比率が拡大したことにより損益へプラスに影響し、前年同期比増収増益となりました。

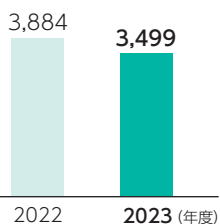
電子素材は、パソコンやサーバー、通信機器などの電子部品向け高付加価値品の出荷減少に加え、昨年度後半からの半導体市況の低迷により、半導体用金型クリーニング材の出荷が減少し、前年同期比減収減益となりました。

以上により、当セグメントの売上高は前年同期比1,526百万円(15.5%)減の8,323百万円、セグメント利益は前年同期比720百万円(65.2%)減の384百万円となりました。

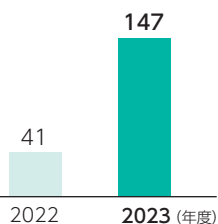
建材関連



売上高 (中間期)
34億99百万円



営業利益 (中間期)
1億47百万円



主な取扱製品
ビル・住宅用アルミ建材／内装建材用プラスチック押出製品

当該事業の主な取扱製品は、住設用押出成形品や住宅用アルミ建材、高強度・高機能手摺などあります。

住宅着工戸数の減少によりアルミ建材の売上が減少し、当セグメントの売上高は前年同期比384百万円(9.9%)減の3,499百万円となりましたが、セグメント利益は原材料価格の変動に応じた価格改定と、固定費の抑制などにより前年同期比106百万円(260.3%)増の147百万円となりました。

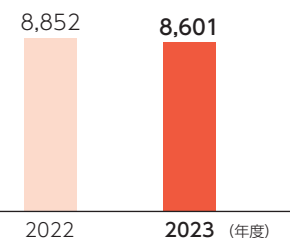


高強度・高機能手摺

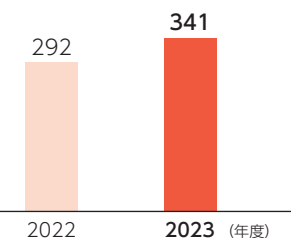
フィルム・シート製品



売上高 (中間期)
86億1百万円



営業利益 (中間期)
3億41百万円



主な取扱製品
フィルム／ステッカー／再帰反射シート*
*再帰反射とは、入射した光が再び入射方向へ帰る反射現象をいいます。



フィルム

当該事業の主な取扱製品は、フィルム、ステッカー、再帰反射シートなどあります。

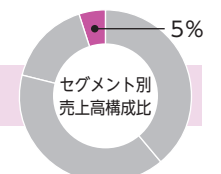
フィルムは、世界的な自動車生産台数は回復も流通在庫の消化が遅れており、自動車向け製品の出荷が減少し、前年同期比減収減益となりました。

ステッカーは、ブラジルとインドネシアでの二輪車生産台数の増加により、二輪車向け製品の出荷が増加したものの、ベトナムでの二輪車生産台数の減少により、二輪車向け3Dエンブレムの出荷が減少し、前年同期比増収減益となりました。

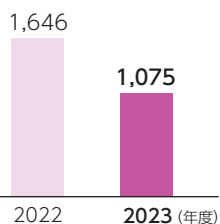
再帰反射シートは、米国でのグラフィック向け製品の流通在庫消化が遅れ、出荷が減少したものの、欧米や中国での自動車販売台数の回復により、ナンバープレート向け製品の出荷が増加し、前年同期比減収増益となりました。

以上により、当セグメントの売上高は前年同期比251百万円(2.8%)減の8,601百万円、セグメント利益は前年同期比48百万円(16.8%)増の341百万円となりました。

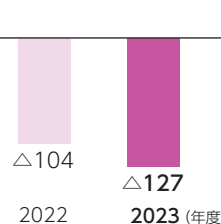
エンジニアリング



売上高 (中間期)
10億75百万円



営業損益 (中間期)
△1億27百万円



主な取扱製品
産業プラントの設計・施工・設備

当該事業の主な内容は、鉄鋼・化学・電力・環境分野の産業プラントの設計・施工・設備やカーボンニュートラルトランジション設備などあります。

グループ会社向け工事案件の減少により、売上が減少したことに加え、製鉄分野向け工事案件は増加したものの、コスト増により損益へマイナスに影響し、当セグメントの売上高は前年同期比571百万円(34.7%)減の1,075百万円、セグメント損失は127百万円(前年同期は104百万円のセグメント損失)となりました。



高圧収込試験設備

「VR能 攻殻機動隊」の空中結像技術（AIRR）に 空中ディスプレイ用リフレクターを提供

2023年10月13日～15日に東京建物 Brillia HALL（東京都豊島区）で上演された「VR能 攻殻機動隊」に協力しました。公演では「空中結像技術（AIRR）」により仮想現実空間が舞台上に再現される中で、SF漫画の金字塔ともいわれる「攻殻機動隊」の世界が能で表現されました。当社は空中結像技術（AIRR）に使用された空中ディスプレイ用リフレクターを提供しました。

この公演はこの後、ベネチア凱旋公演を皮切りに、ワールドツアーが予定されています。



演出：奥秀太郎
脚本：藤咲淳一
VR技術：稲見昌彦（東京大学教授）
映像技術：福地健太郎（明治大学教授）
映像技術：杉本麻樹（慶應大学教授）
AIRR技術：山本裕紹 陶山史朗（宇都宮大学教授）
照明：鶴田美鈴
音響：百合山真人
舞台監督：八木智
協力：日本カーバイド工業
製作：TBS

早月工場の新設備・多層広幅フィルム製造設備が 2023年度内に本格稼働

2021年に着工、早月工場（富山県滑川市）に完成した多層広幅フィルム製造設備が2023年度内に本格稼働します。新設備には、多様な膜厚に対応する広幅の製膜設備とマルチコーターを導入、新規素材フィルムや新規素材を積層した次世代高機能フィルムの製造が可能になります。

エレクトロニクス・セーフティ分野に向けた高機能製品の開発、市場投入を推進します。



早月工場に増設された多層広幅フィルム製造設備

会社情報

会社の概要（2023年9月30日現在）

社名	日本カーバイド工業株式会社
設立	1935年（昭和10年）10月
資本金	7,797,898,752円
本拠地	東京都港区港南二丁目16番2号
営業所	大阪
工場	富山県：魚津市、滑川市 京都府：向日市
研究所	富山県：滑川市
従業員数	連結 3,294名 単体 517名

役員（2023年9月30日現在）

代表取締役社長	杉山孝久
代表取締役	井口吉忠
取締役	長谷川幸伸
取締役	横田祐一
取締役（社外）	白井均
取締役（社外）	吉岡早月
常勤監査役（社外）	久保英昭
常勤監査役（社外）	林文明
監査役（社外）	江見睦生

株式情報

株式の状況 (2023年9月30日現在)

発行可能株式総数 12,000,000株

発行済株式の総数 9,419,659株

(注) 当社は、取締役(社外取締役を除く)4名、執行役員5名に対して譲渡制限付株式の付与のため、2023年7月25日付で普通株式12,833株を発行いたしました。

株主数 10,493名 (前期末比361名増)

株主 (上位10名の株主の状況)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	819	8.71
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	370	3.94
榑原三郎	276	2.93
JPモルガン証券株式会社	255	2.71
有限会社マスター	200	2.12
INTERACTIVE BROKERS LLC	189	2.02
ゴールドマン・サックス証券株式会社 BNYM	177	1.88
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	170	1.81
岩崎泰次	155	1.65
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042	133	1.42

(注) 1.持株比率は自己株式(7,205株)を控除して計算しております。

2.千株単位の記載株式数は、千株未満切り捨てにより表示しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿 管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告 公告掲載URL https://www.carbide.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

当社ホームページのご案内▶

ホームページアドレス

<https://www.carbide.co.jp/>



表紙写真

当社グループの世界各国の仲間たち

左上からタイ(NCIタイ)、インドネシア、アメリカ、オランダ、インド、中国、ベトナム、ブラジル、日本、タイ(ECT社)



日本カーバイド工業株式会社

〒108-8466 東京都港区港南二丁目16番2号
Tel 03 (5462) 8200 Fax 03 (5462) 8244

UD
FONT

